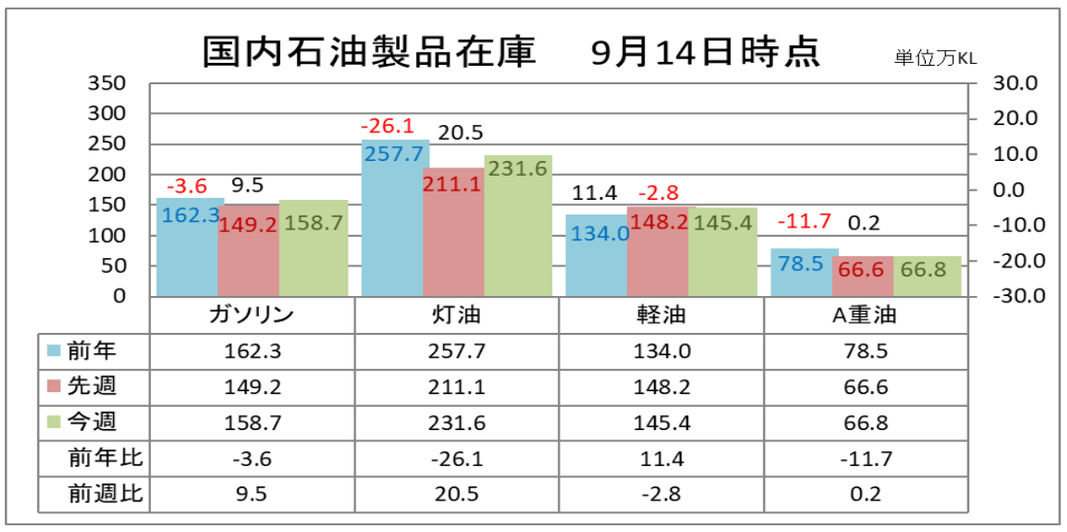
# イデックスオイルレポート　~For a week~

㈱新出光

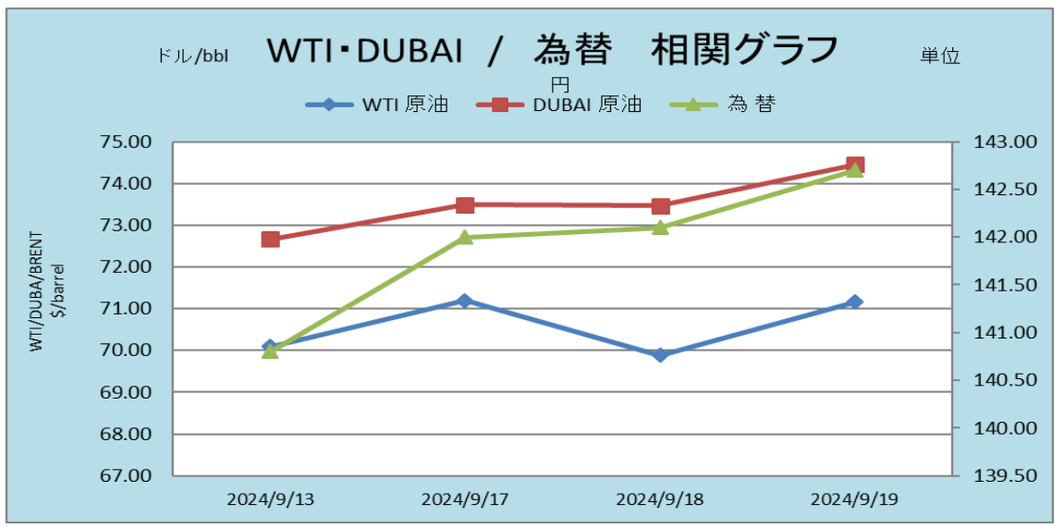
**【概況】**

●13日、米国立ハリケーンセンター（NHC）によると、ハリケーン「フランシーヌ」は11日米ルイジアナ州南部に上陸。13日時点ではフランシーヌは勢力を弱め、温帯低気圧に変わったという。フランシーヌは依然として周辺地域に豪雨などをもたらす可能性があるものの、メキシコ湾岸の米各石油会社の一部が操業再開の準備を始めたと伝わる中、これまで高まっていた供給懸念が和らぎ、原油が売られ相場は68.65ドルへ反落した。
●16日、石油精製施設が集積するメキシコ湾岸に前週、ハリケーン「フランシーヌ」が襲来。周辺の石油精製施設は稼働を一時停止した。一部の石油精製施設の再稼働が遅れていることから供給不安が根強く、買いを支えた。また、米連邦準備制度理事会（FRB）が週内に開く連邦公開市場委員会（FOMC）で、大幅な利下げに踏み切るとの観測を背景に米株価が上昇。投資家のリスク回避姿勢が後退する中、株式と並ぶリスク資産である原油にも追随買いが入り原油コストは70.09ドルへ反発した。
●17日、米内務省安全環境執行局（BSEE）が16日した報告によると、ハリケーン「フランシーヌ」が先週襲来した米メキシコ湾岸周辺では、原油生産の約12%、天然ガス生産の約16%がまだ復旧していない。需給が引き締まるとの懸念が継続し、原油買いが先行し相場は71.19ドルへ続伸した。また、米原油在庫の減少予想も買い地合いを支援した。米石油協会（API）、米エネルギー情報局（EIA）が17日夕、18日午前にそれぞれ発表する週報では、前週比50万バレルの在庫取り崩し（ロイター通信調査）が見込まれている。
●18日、朝方の相場は、前日夕発表の米石油協会（API）の週間在庫統計で原油在庫が予想に反する積み増しとなったことを受け需給引き締まり観測が後退し、売りが先行していた。ただ、米エネルギー情報局（EIA）がその後発表した13日までの1週間の米石油在庫統計で、原油在庫は前週比160万バレル減と、市場予想（50万バレル減＝ロイター通信調べ）を上回る取り崩しが示されたことを受け、一時買いが優勢となるが、相場は70.91ドルへ反落した。
●19日、FRBは18日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で政策金利を0.5%引き下げることを決めた。通常の2回分となる大幅利下げ決定を受けて、米景気が下支えられてエネルギー需要も改善するとの期待感が台頭した。米労働省が19日に発表した新規失業保険申請件数が前週比1万2000件減の21万9000件と、市場予想（ロイター通信調べ）の23万件を下回ったことも景気先行きをめぐる楽観的な見方につながった。
また、前日の米利下げ決定を受け、ユーロ買い・ドル売りの流れが進行。ドル建てで取引される商品の割安感につながり、原油が買われ相場は71.95ドルへ反発した。

| 9月20日 | 16:00現在 | WTI原油 | 71.80ドル | 為替　1ドル | 143.76円 |
|---|---|---|---|---|---|




| | ガソリン | 灯油 | 軽油 | A重油 |
|---|---|---|---|---|
| 前年 | 162.3 | 257.7 | 134.0 | 78.5 |
| 先週 | 149.2 | 211.1 | 148.2 | 66.6 |
| 今週 | 158.7 | 231.6 | 145.4 | 66.8 |
| 前年比 | -3.6 | -26.1 | 11.4 | -11.7 |
| 前週比 | 9.5 | 20.5 | -2.8 | 0.2 |




| | 次回元売変動予測 9/26～ | 元売変動予測 |
|---|---|---|
| ガソリン | → | −0.2～+0.3 |
| 灯油 | → | −0.2～+0.3 |
| 軽油 | → | −0.2～+0.3 |
| A重油 | → | −0.2～+0.3 |
| LSA | → | −0.2～+0.3 |

※原油コスト「+2.0円～+2.5円」
※激変緩和補助金「−11.9円」　前週比−2.2円
※現時点での予測です。

**【製品卸価格】**

≪今週≫今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「−2.5円」、補助金は、「−9.7円・60%」、都合「+0.4円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの17日時点の小売価格平均は174.5円となった。
≪9月26日以降≫次回の元売り改定は、原油コストは「+2.0円～+2.5円」、激変緩和補助金は「−11.9円・60%」の見込みで、都合「−0.2円～0.3円」の改定予測となっている。

**【次世代エネルギー】　＜三菱重工とシェブロン、25年に米で水素生産・貯蔵事業＞**

三菱重工業は、米国の石油メジャーであるシェブロンと提携し、米国で再生可能エネルギーからの水素生産・貯蔵・発電事業を展開予定。2025年に商用運転を開始し、グリーン水素による次世代エネルギー事業の柱を育成していく戦略である。
このプロジェクトは、西部ユタ州で実施され、三菱重工やシェブロン、その他の投資家が出資するACESデルタが担う。地元電力会社インターマウンテン電力は、余剰再生エネルギーを活用し、水電解による水素の生産をACESに委託。生産された水素は日量100トンまで生産可能で、岩塩ドームに貯蔵される。将来は、これを天然ガス火力と混焼または将来は水素のみでの発電として活用し、CO2排出量の削減を図る。
水素はEUや米国などでエネルギー貯蔵として注目され、特に今回のプロジェクトは、世界最大のグリーン水素貯蔵場所になる可能性がある。総事業費は数千億円規模と見込まれており、再生エネルギーを有効活用し、温室効果ガスの排出削減への大きな一歩を目指す。
発電用ガスタービンの開発・製造および水電解装置の製造も三菱重工が担当、水素を使用した発電ビジネスに必要な技術・設備のノウハウを強化している。米国内での温暖化対策の強化と普及する太陽光パネルによる再生可能エネルギーの増加を背景に、太陽光発電と連携した水素生産でムダを削減し、環境への配慮を進めます。米国政府の支援もあり、三菱重工業はパートナーとの協力を強化し、さらなる水素ビジネス拡大に取り組む。「水素大国」実現への貢献と、グリーン化社会における事業成長を目指していく戦略である。
このような革新的なプロジェクトへの参加は、将来のエネルギーソリューションを提供し、環境影響を減少させると共に、製造業の高い品質と信頼性を守りつつ、進化する市場ニーズに応えていくと見込まれる。

[出典]日経電子版　https://www.nikkei.com/nkd/industry/article/?DisplayType=1&n_m_code=081&ng=DGXZQOGN300110Q4A730C2000000

© 2024 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.